



製品安全データシート

| 危険記号 | 保護具 | 記号 |
|--|---|-----------|
|  |  | 規定されていません |

発行日 2011年11月30日

改訂日 2016年7月27日

改定番号

1. 製品及び会社情報

製品名 Protein A Agarose Beads
 製品コード 9863
 推奨用途 人に使用しないこと。 研究上の使用のみ。

会社
 CSTジャパン株式会社
 東京都千代田区内神田1-6-10
 TEL: 03-3295-1630

登録番号 S022

2. 危険有害性の要約

GHS-分類

注意喚起語

危険



危険有害性情報

- 引火性の高い液体および蒸気
- 強い目刺激
- 吸引すると有害のおそれ
- 呼吸器への刺激のおそれ
- 眠気およびめまいのおそれ
- 遺伝性疾患のおそれ
- 生殖能または胎児への悪影響のおそれ
- 長期または反復暴露による肝臓の障害
- 長期または反復暴露による神経の障害のおそれ

| | |
|--------------|-----|
| 引火性液体 | 区分2 |
| 急性毒性 (吸入:蒸気) | 区分5 |

2. 危険有害性の要約

| | |
|---------------------|------|
| 目に対する重篤な損傷/目刺激性 | 区分2A |
| 生殖細胞変異原性 | 区分1B |
| 生殖毒性 | 区分1A |
| 特定標的臓器毒性 (1 回暴露) | 区分3 |
| 特定標的臓器毒性/ 肝臓 (反復暴露) | 区分1 |
| 特定標的臓器毒性/ 神経 (反復暴露) | 区分2 |

物理化学的危険性

注意書き:

- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- 必要に応じて個人用保護具を使用すること。
- 粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 気分が悪い時は、医師の診断/手当を受けること。
- 暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断/手当を受けること。
- 飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 施錠して保管すること。
- 内容物/容器は、承認された廃棄物処理設備で処分すること。

3. 組成、成分情報

製品タイプ 混合物

危険有害成分

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | 化学式 | 化審法番号 | 安衛法番号 | CAS番号 |
|----------|------------|------------------------------------|-------|--------|---------|
| Ethanol | 17.5-28.5% | CH ₃ CH ₂ OH | 2-202 | 2-9-61 | 64-17-5 |

4. 応急措置

| | |
|---------------|--|
| 目に入った場合 | 多量の水で15分以上よく洗浄し、医師の診察を受けること。 |
| 皮膚に付着した場合 | 汚染された衣服と靴を脱いで、直ちに石けんと水で洗浄すること。 |
| 吸入した場合 | 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は医師に連絡すること。 |
| 飲み込んだ場合 | 水で口内を洗浄してから十分な量の水を与え、医師に連絡すること。 |
| 医師に対する特別な注意事項 | 症状に応じた治療を行うこと。 |

5. 火災時の措置

| | |
|---------|--------------------------|
| 引火特性 | 火災発生の可能性 |
| 消火剤 | 周辺状況の周辺環境の応じて適切な消火手段を使う。 |
| 不適切な消火剤 | 棒状放水 |

5. 火災時の措置

化学物質による特別な危険有害性 加熱により容器が爆発するおそれがある。極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で容易に発火する。

消防士のための保護設備及び予防措置 自給式呼吸装置と保護服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 全ての着火源を取り除く。

環境に対する注意事項 安全を確認してから、もれやこぼれを止める。

除去方法 吸収性のある材料で覆い密閉式の容器にできる限り集め、残留物を大量の水で洗い流す。

その他の情報 換気する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 十分な換気を確保する。

保管 熱、火花のような着火源から離して保管する。
直射日光や火気を避け、涼しい、換気の良い場所に容器の栓をしっかりと閉めて保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

| 化学名 | 日本 | ACGIH TLV |
|---------|----|----------------|
| Ethanol | | STEL: 1000 ppm |

設備対策 特に、閉所では十分な換気の確保が必要。

保護具

目/顔面の保護 サイドシールド付き安全眼鏡。
皮膚及び身体の保護具 保護手袋。
呼吸器の保護具 必要に応じて呼吸器保護具を使用。

適切な衛生対策

正しい産業衛生と安全規定に従って取扱う。

9. 物理的及び化学的性質

物質の状態 液体
物理的状态 無色
臭い 特徴的な臭気
臭気の閾値 情報なし
pH データなし
融点/範囲 -114.1℃
凝固点 情報なし
初留点 情報なし
沸点・沸騰範囲 78.5℃
引火点 13℃
蒸発速度 データなし

9. 物理的及び化学的性質

| | | |
|----------------|---|-----------|
| 空気中での可燃性限界 | 上 19vol% | 下 3.3vol% |
| 爆発特性 | 情報なし | |
| 酸化特性 | 情報なし | |
| 蒸気圧 | 5.8 kPa (20°C) | |
| 蒸気密度 | 1.6 | |
| 比重 | 0.7892 (20°C/4°C) | |
| 溶解性 | 水に可溶、他のアルコール・エーテル・ケトン・クロロホルム・他の有機化合物に可溶 | |
| n-オクタノール/水分配係数 | -0.32 | |
| 自然発火温度 | 363°C | |
| 分解温度 | 情報なし | |
| 粘度 | 情報なし | |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|--|
| 安定性 | 通常の状態では安定。 |
| 避けるべき条件 | 熱、炎、火花。 |
| 混触禁止物質 | 強酸化剤。 |
| 危険有害な分解生成物 | 通常使用下ではない。 |
| 反応性 | 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニアと徐々に反応し、火災や爆発の危険をもたらす。硝酸、硝酸銀、硫酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤と激しく反応し、火災と爆発の危険をもたらす。 |

11. 有害性情報

急性毒性

| | |
|--------|---------------------------|
| 経口 | LD50 6200 mg/kg (rat) |
| 経皮 | LDLo 20000 mg/kg (rabbit) |
| 吸入した場合 | LD50 3837 ppmV (rat) |

慢性毒性・長期毒性

| | |
|---------|-------|
| 発がん性 | 区分外。 |
| 刺激 | 区分外。 |
| 腐食性 | 区分外。 |
| 感作性 | 情報なし。 |
| 神経疾患 | 情報なし。 |
| 変異原性影響 | 区分1B。 |
| 生殖器への有毒 | 区分1B。 |
| 発生毒性 | 区分1A。 |

目標臓器効果 肝臓、神経系。

1 2. 環境影響情報

生態毒性

| 化学名 | 藻類に有毒 | 魚毒性 | 微生物に対する毒性 | Daphnia magna (オオミジンコ) |
|---------|-----------------------|---------------------|-----------|------------------------|
| Ethanol | EC50 = 1000 mg/L 96 h | EC50 >100 mg/L 96 h | | EC50 = 5012 mg/L 48 h |

残留性/分解性 情報なし。

生体蓄積性 情報なし。

移動性 情報なし。

1 3. 廃棄上の注意

残留物/未使用製品からの廃棄物 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器・包装 空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、承認された廃棄物処理施設に運ばなければならない。

1 4. 輸送上の注意

IMDG/IMO IMOの規定に従う。
 国連番号: 1170
 国連分類: 3 (引火性液体)
 容器等級: II
 海洋汚染物質: 該当しない。

ICAO/IATA ICAO/IATAの規定に従う。
 国連番号: 1170
 国連分類: 3
 容器等級: II

DOT 規定されていません。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法: 危険物・引火性の物 (施行令別表第1第4号)
 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) (政令番号: 9-61)

消防法: 第4類引火性液体、アルコール類

航空法: 引火性液体

船舶安全法: 引火性液体類

1 6. その他の情報

改訂日

改定メモ

推奨される制限

免責条項

このMSDSの情報は、その公開の時点において弊社の有する知識、情報及び見解の限りにおいて作成されています。提供した情報は、安全な取り扱い、使用、加工、貯蔵、輸送、廃棄及び放出のためのガイドのみを意図としたものであり、品質を保証しているものではありません。この情報は指定した特定の物質のみに関するものであり、他の物質とともに使用する場合、または他のプロセスで使用する場合はこのMSDSに記載のない限り適用されないことがあります。